



# 日本バイオリギング研究会会報

日本バイオリギング研究会会報 No. 164  
発行日 2020年04月28日 発行所 日本バイオリギング研究会（会長 佐藤克文）  
発行人 光永 靖 近畿大学 農学部 水産学科 漁業生産システム研究室  
〒631-8505 奈良県奈良市中町 3327-204  
TEL & FAX: 0742-43-6274 E-mail: biolog@bre.soc.i.kyoto-u.ac.jp  
会費納入先：みずほ銀行 出町支店 普通口座 2464557 日本バイオリギング研究会



## もくじ

### ご挨拶

「創造的休暇」を謳歌しよう—会長着任の挨拶に代えて

佐藤克文（東京大学大気海洋研究所）2

### 研究の紹介

巨大魚メコンオオナマズとの格闘

横山綾子（京都大学大学院農学研究科修了）3

### 新事務局より

#STAY HOME, STAY BLS

光永 靖（近畿大学農学部）4

「ケンカチャン湖を臨む部屋の窓から#STAY HOME」  
撮影者：光永 靖（近畿大学農学部） 撮影場所：タイ・ベッチャブリー

## 「創造的休暇」を謳歌しよう－会長着任の挨拶に代えて

佐藤克文（東京大学大気海洋研究所）

令和2年度（2020年度）より会長を仰せつかりました、東京大学大気海洋研究所の佐藤克文です。長年、会長として研究会を支えて下さった京都大学の荒井修亮先生が、水産大学校へ栄転されるのを機に会長職を誰かにバトンタッチしたいとの意向を受け、昨年度後半から幹事会で次期会長について議論を重ねてきました。その結果、日本バイオリギング研究会としては初の試みとして会長選挙を行うこととなり、私が会長職を引き継ぐこととなりました。副会長は北海道大学の三谷曜子先生に打診し、快諾していただきました。ニュースレターの発行を始め、各種事務を一手にこなしている事務局は、日本大学の牧口祐也先生が3年間の任期を終えました。一人で研究室を運営されている身でありながら、これまで研究会の事務局を滞りなく回していただきまして、本当に有り難うございました。新年度からは近畿大学の光永靖先生に事務局を引き受けていただきました。この大変なポジションに対して自発的に手をあげてくださったことに加え、既にてきぱきとことを進めていただいています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大という、たいへんな状況から本年度は始まりました。感染された方や生活に支障をきたしていらっしゃる皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。内閣総理大臣によって緊急事態宣言が出され、東京都など複数の都道府県で外出自粛が要請されるなど、未体験の事態が次々に発生しています。新聞やテレビやネット上には、「もっと早く緊急事態宣言をするべきであった」という意見と、「コロナ対応が日本経済へ及ぼす悪影響を懸念」する意見が入り乱れ、いったい何が正解なのかわからない状況です。そんな中で、3月30日に朝日新聞に掲載された大学教員による投書「逆転の発想でコロナと向き合う」に強い共感を覚えました。その冒頭を抜粋します。

「英ケンブリッジ大学で下働きをしていたニュートンは、当時流行していたペストから逃れ、郷里に疎開した。雑事から解放され、その後わずか1年半の内に『万有引力の法則』をはじめとする3大業績を成し遂げた。忙しい日常から離れ、自らの関心事に没頭できたからだ。『創造的休暇』である。」

これを読んだ当時、学会や会議が相次いで中止となり、いくらか時間に余裕が生まれていた私は「よっしゃ俺もニュートンのように・・・」と意気込んだのですが、それからわずか数日後には、東京大学が全ての授業を

オンライン化することを宣言しました。Zoomの使い方講習が何度も開催され、いつの間にかGoogleカレンダーが再び会議の予定で一杯となってしまいました。ペストの時代とは異なり、インターネットの時代は雑事がどこまでも追いかけてくるようです。

想定外の状況に多くの人々が途方に暮れている一方で、嬉々として「創造的休暇」に突入しているとおぼしき人をちらほらと見かけます。例えば、私のメール受信リストの中に、論文の原稿が添付されている数が最近増えています。日本よりはるかに深刻な状況にあるはずの欧米の共同研究者から、なぜだか多くの論文原稿が届いています。国際バイオリギングソサイエティからは「The Breadth of Bio-Logging」というネットを介した情報発信がなされています（詳しくは3月27日に国立極地研究所高橋晃周先生から研究会会員向けに発信されたメールを参照下さい）。

極地研究所と大気海洋研究所ではZoomによるバーチャル合同ゼミを開催し、中止になった学会で発表するはずだったプレゼンテーションを見せ合いました。福山大学の渡辺伸一先生とは、オンライン授業をどう進めていったら良いか、あれこれやり取りしています。これまで、対面式授業に限ってコピーの配付が認められていた論文や新聞記事などの著作物が、教育目的ならば著作権者の許諾なしにネット配信可能になる方向で世の中が動いているようです。また実際に授業準備を進める過程で感じた事ですが、対面式の「良い授業」とオンライン経由の「良い授業」は別物である模様です。高校生の息子と一緒に東進ハイスクールの映像授業を見ながら、林先生クラスの名人芸から授業に生かせる要素がないかを模索しています。生態学者ならよく知っているとおり、擾乱の後に生物相は変化します。その後の環境により適した者が繁栄していくのが生物世界の常識です。バイオリギング研究会にはフィールドワークを主体とする研究者が大勢いるため、野外調査に今後支障をきたす可能性はあります。事態が長引いたら、毎年秋に開催されていたシンポジウムも形を変えざるをえないかもしれません。でも、所帯が小さく若い世代が多いバイオリギング研究会なら大丈夫。どんな状況にさらされても柔軟に対応し、乗り切っていけるでしょう。こんなときだからこそ、「創造的休暇」を謳歌しようではありませんか。

## 巨大魚メコンオオナマズとの格闘

横山綾子（京都大学大学院農学研究科修了）



図 1 . 調査地の景色。毎日夕陽が綺麗です

こんにちは。京都大学大学院農学研究科卒業生の横山綾子と申します。在学時はメコンオオナマズという東南アジア原産の淡水魚の生態を超音波テレメトリーを用いて研究していました。学部、修士を通して6回ものタイ調査に参加し、たくさんの貴重な経験をさせていただいたので何のことを書こうやらとても迷ったのですが、一番記憶に強く残っているメコンオオナマズに初めて発信器を装着した時のことについて書こうと思います。研究の背景について少し書いておきます。タイ国水産局は激減した個体数の回復と持続的な漁業のために、1983年よりメコンオオナマズの人工種苗を複数のダム湖で放流しています。特に、我々(近畿大学と京都大学を中心とした研究チーム)が調査を行なっている湖は、放流した全長10cm程度の個体が2mにまで成長することから非常に成育に適した環境であると言えます(図1)。この湖において、謎に包まれたメコンオオナマズの生態をテレメトリーで明らかにし、種苗放流に資する知見を得ることが研究の目的です。

メコンオオナマズ漁は毎年12月に行われるため、それに合わせてフィールド調査に行きます。漁獲上限を決めた上で数人の漁師が刺網を用いて2m級の個体を狙います。漁は夜中に行われます。漁獲されてすぐに発信器を装着するために、先生方、先輩方が懇意にしている地元漁師さんのボートにナマズ研究の大先輩と二人で載せてもらい、一晩中波に揺られながら湖上で待機しました。ボートに載せてくれた漁師さん夫婦はとても親切で、タイ語を教えてくださいたりタイのお菓子をくれたりと、とても楽しい夜を過ごしました。しかし、3

日3晩船で待機していてもナマズがかかったとの連絡が入りません。「わたし、ナマズ運ないんじゃないか、」。寝不足もあいまって思考がネガティブになってきた4日目の夜、ついにメコンオオナマズがかかったという連絡が入りました。急いで現場に連れて行ってもらうと刺し網にかかりプカーと湖面に浮かぶ巨大な魚が、！（図2）。

2m級の立派な個体です。元気なようなので早速手術に移ります。メコンオオナマズの手術は麻酔をかけずに行います。一般的な発信器装着手術と同様、まずはメスでお腹に切り込みを入れるのですが、皮膚が分厚く腹腔に全然辿りつきません。慢心の力を込めて3回ほど同じところに刃を入れ、ようやく腹腔までたどり着きました。発信器をねじり込み後は縫合です。隣で指示をしてくれていた先輩のお陰もあり、何とか手術を終えることができました。手術でナマズが弱ってはいないか気になり、大きな口にそっと手を入れると優しくハムハムと口を動かし、まるで「僕は大丈夫だよ」と言っているようでした。(メコンオオナマズの顎の力はとても強く本気で噛まれたら指の骨が折れかねないことを後に知りました。マネしないでください。)

周りの方にたくさんのお膳立てをしてもらいなんとか初の装着手術を終えました。丁度その晩は獅子座流星群で(双子座だったかもしれませんが)、流れる星を見ながら「フィールド調査はたくさんの人の協力と、何より突然発信器を装着されるという理不尽な目に遭いながらもちゃんと生きて泳いでくれるナマズがいて成り立っているんだなあ。ちゃんと解析して成果にしなければ。」としみじみ思いました。



図 2 . 刺網にかかり湖面に浮かぶメコンオオナマズ

## #STAY HOME, STAY BLS

光永 靖 (近畿大学農学部)

令和2年度(2020年度)より事務局長を仰せつかりました近畿大学農学部水産学科漁業生産システム研究室の光永です。前事務局長の牧口先生、長い間お疲れ様でした。会員の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。コロナ禍により令和2年3月26日に予定されていた総会が中止となってしまいましたので、当時の議案書をもとに事業報告や事業計画をお示しいたします。

学の牧口幹事にも、しばらくの間、引き続き助けていただけることになりました。この場を借りてお礼申し上げます。新事務局長は普段から家族内でLINE(line.me/ja)をする程度で、SNS(Social Networking Service ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の類には疎いのですが、これを機に覚えていきたいと思っております。

### 1. 第1号議案 令和元年度事業報告

#### (1) 会員数(令和2年3月22日現在)

正会員 101名(昨年度比 -5)

学生会員 148名(昨年度比 +1)

終身会員 4名

賛助会員 9社(A:4、B:3、C:2)

「より一層の勧誘が望まれますね。皆さま、よろしくお願いいたします。」

#### (2) 会費納入状況

正会員未納者 令和元年度まで: 51名

(昨年度比 +21: 3月22日現在)

学生会員未納者 令和元年度まで: 65名

(昨年度比 +34: 3月22日現在)

「本年度も会費の振り込みをお願いいたします。」

#### (3) 幹事会の開催

第1回 令和元年7月5日

(バイオロギング研究所)

第2回 令和元年9月27日

(東京海洋大学)

第3回 中止

「3月に予定されていた第3回幹事会もコロナ禍により中止となってしまいました。幹事会も総会も中止が決まり、引継ぎもままならない中、新事務局として不安を抱いていた折、佐藤新会長の「形式にこだわらず、やれることをどんどん進めていこう」という力強いお言葉に励まされ、3月23日よりメーリングリスト(groups.google.com)による審議を進めました。これまでメーリングリストを管理して下さっていた東北大学の塩見幹事には大変お世話になりました。他にもFacebook(www.facebook.com/JapanSocBioLoggingSci)を管理して下さっていた西海区水産研究所の奥山幹事、ホームページ(japan-biologgingsci.org/)を管理して下さっていた日本大

#### (4) 会報の発行

BLS研究会会報を152~163号まで発行した。

#### (5) ホームページの管理・運営

平成29年5月11日に開設したホームページへの総閲覧数は103,189件となった(2020年3月22日現在)2019年3月25日時点の52,454件から、50,735件増加した。Facebookのページを管理した。

#### (6) 第15回日本バイオロギング研究会シンポジウムの開催

令和元年9月27日~28日に東京海洋大学品川キャンパス 楽水会館において、第15回シンポジウム「極域研究の今」を開催した(オーガナイザー:東京海洋大学 宮本佳則 教授)。1件のワークショップが行われた。詳細はシンポジウム収支報告を参照。

#### (7) カレンダーの制作と配布

国立科学博物館坂田氏へ依頼し、カレンダー「動物たちは知っている」を制作し会員に3部ずつ配布した。西海区水産研究所の奥山幹事にカレンダーを担当して頂いた。

「ここまでが令和元年度の事業報告となります。皆で集まれることが、当たり前のように感じていましたが、早く事態が収束することを願うばかりです。」

### 2. 第2号議案 令和元年度決算報告

「すでに3月30日に牧口前事務局長から会員の皆さまにメールでお知らせいただいております。当時の監査役であった光永と極地研究所の高橋監事より監査の結果、上記に相違ないことを認めます。光永が事務局に移動したため、令和2年度より名古屋大学の依田監事にも監査役をお願いいたします。」

### 3. 第3号議案 令和2年度事業計画(案)

#### (1) 会長

令和元年10月25日に会員の投票によるweb選挙を実施し、東京大学大気海洋研究所 海洋生命科学部門 行動生態計測分野 佐藤克文 教授が選任された(得票率58.9%(33票))。令和2年度から佐藤克文 教授が会長に着任される。

#### (2) 事務局

近畿大学農学部 水産学科 漁業生産システム研究室 (事務局長:光永 靖 准教授)が担当する。

#### (3) 幹事会の開催

3回程度の幹事会を開催する。ただし、遠方からの幹事の参加はテレビ会議も活用する。必要に応じ、電子メールによる持ち回り会議を開催する。

「幹事の多くが所属する各大学でも休校となり、テレワークやオンライン授業が推奨されることになりました。そのためZoom(zoom.us/jp-jp/meetings.html)などによるテレビ会議の機会が増えました。そこで早速、4月20日にZoomによる第1回幹事会を開催しました。慣れないテレビ会議は緊張しましたが、無事10名の幹事と繋がり、活発な意見交換を行うことができましたので、以下にお示しします。」

#### (4) BLS 研究会会報の発行

毎月研究会会報を発行、バイオロギング研究会ホームページへアップロードし、正会員および学生会員へリンク先のURLをメーリングリストで配信する。

#### (5) ホームページの管理・運営

ホームページおよびFacebookによるホームページを管理・運営する。

「これまで通りの事業を継続するとともに、新しいツールも試みてはどうかとの積極的な意見ができました。具体的には、PDF(Portable Document Format)をホームページに掲載してFacebookで通知するだけでなく、note(note.com)に発信して即時性を押し出し、さらにtwitter(twitter.com)と連動させて反応を見るなどです。なんだかすごいことになりそうですね。」

#### (6) 第16回日本バイオロギング研究会シンポジウムの開催(オーガナイザー:名古屋大学 依田 憲 教授)

「令和2年11月24日(火)~25日(水)に名古屋大学 坂田平田ホールで開催の予定です。コロナ禍により通常の開催が不可能な場合は、Zoomでパワーポイントを共有するオンラインシンポジウムも視野にいれるとの積極的な意見がでています。開催にあたっては決定次第、会員の皆さまにお知らせいたします。」

#### (7) 特別事業

カレンダーの制作・配布を行う。これについては、担当の幹事を置き、外部に委託する。

「今年度も引き続き、西海区水産研究所の奥山幹事に担当していただきます。よろしくお願いいたします。」

#### (8) 関係学会の共催等

「すでに多くの学会が中止を発表しているところです。情報が入り次第、会員の皆さまにお知らせいたします。」

### 4. 第4号議案 令和2年度予算(案)

「こちらもすでに3月30日に牧口前事務局長から会員の皆さまにメールでお知らせいただいております。」

### 5. 第5号議案 会則の改正

「今年度は会則の改正はできませんが、末尾に役員一覧をお示しいたします。」

### 6. 第6号議案 その他

「こんな時だからこそ、新しいことにチャレンジしていきたいですね。幹事会でもホームページ、Facebookに加え、Zoom、note、twitterなど様々な新しいツールが紹介されました。特に若い幹事の皆さんや会員の皆さまのアイデアを、どんどん取り入れていけたらと思います。頼りない事務局ですが何卒よろしくお願いいたします。」

#お家にいましょう、バイログを続けましょう!

#### 日本バイオロギング研究会役員一覧

役職名・氏名・所属\*

会長・佐藤 克文・東京大学大気海洋研究所

副会長・三谷 曜子・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター

幹事・荒井 修亮・水産大学校

幹事・綿貫 豊・北海道大学大学院水産科学研究院

幹事・宮下 和士・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター

幹事・北川 貴士・東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター

幹事・山本 麻希・長岡技術科学大学工学研究科生物機能工学専攻

幹事・赤松 友成・笹川平和財団海洋政策研究所

幹事・宮本 佳則・東京海洋大学学術研究院海洋資源エネルギー学部門

幹事・仰木 裕嗣・慶應義塾大学大学院政策メディア研究科

幹事・小島 隆人・日本大学生物資源科学部

幹事・牧口 祐也・日本大学生物資源科学部

幹事・渡辺 佑基・国立極地研究所

幹事・塩見 こそえ・東北大学学際科学フロンティア研究所  
幹事・三田村 啓理・京都大学フィールド科学教育研究センター  
幹事・奥山 隼一・西海区水産研究所亜熱帯研究センター  
幹事・渡辺 伸一・福山大学生命工学部  
幹事・河邊 玲・長崎大学海洋未来イノベーション機構  
幹事・飛龍 志津子・同志社大学生命医科学部  
幹事・青木 かがり・東京大学大気海洋研究所  
幹事・木村 里子・京都大学国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター  
幹事・光永 靖・近畿大学農学部  
監事・高橋 晃周・国立極地研究所  
監事・依田 憲・名古屋大学大学院環境学研究科

\*所属はいずれも令和2年4月1日現在

事務局：〒631-8505 奈良県奈良市中町 3327-204  
近畿大学農学部 水産学科 漁業生産システム研究室  
光永 靖  
Tel & Fax: 0742-43-6274  
Email: biolog@bre.soc.i.kyoto-u.ac.jp

会費振込口座：みずほ銀行 出町支店  
普通口座 246455  
日本バイオロギング研究会

## 会費納入のお願い



■会費の納入にご協力をお願いいたします。正会員5000円、学生会員（ポスドクも含まれます）1000円です。

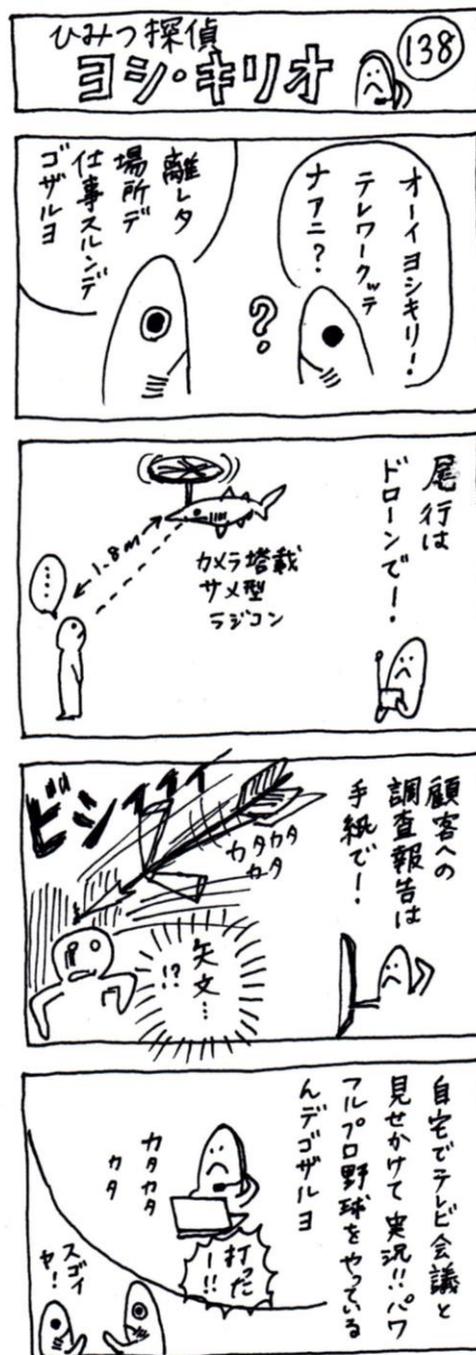
2年間会費未納ですと自動的に退会になりますのでご注意ください。

■住所・所属の変更はお早めに事務局  
([biolog@bre.soc.i.kyoto-u.ac.jp](mailto:biolog@bre.soc.i.kyoto-u.ac.jp)) まで

### 編集後記



大変遅くなりましたが4月号をお届けします。この度はたくさんの方に助けていただきました。あらためて研究仲間って素敵だなと思いました。今後ともよろしく願いいたします。【YM】



【S.K】